

横座りの馬

ここに載せた馬の埴輪は、京都府木津町音乗谷古墳おんじよがたにから出土した珍しい馬形埴輪です。鞍の右側に表現されたブランコ状のものは、反対の左側ではなく、両足をそろえて水平の板の上に置き、横向きに鞍にすわるための特別な装置と見られます。同種の馬装を見せる馬は、これまで主に関東地方から出土していましたが、平成17年3月刊行の学報『奈良山発掘調査報告 I』で報告されたこの埴輪は、近畿地方をはじめ西日本でも広く存在していたことを教えてくれました(写真左:高さ58.0cm)。

横座りの馬のほかにも、音乗谷古墳の造り出しには、豪華に飾られた王が騎乗したであろう馬、鞍と手綱をつけた馬、手綱だけをつけた馬など各種の馬とともに、牛や犬、鳥などのさまざまな動物埴輪が人物埴輪とともに置かれていました。そして、墳丘周囲を取巻いて円筒埴輪とともに玉杖や双脚輪状文の埴輪がにぎやかに飾り立てていたことがわかりました(写真右)。近畿地方の6世紀前半を代表する埴輪が報告書の作成作業により30年ぶりに甦ったのです。
(平城宮跡発掘調査部 高橋 克壽)



